

3本の竹

大正中だより

2021/9/15

8月1日御所市教育大綱ワークショップに参加して

PTA会長 石口嘉美

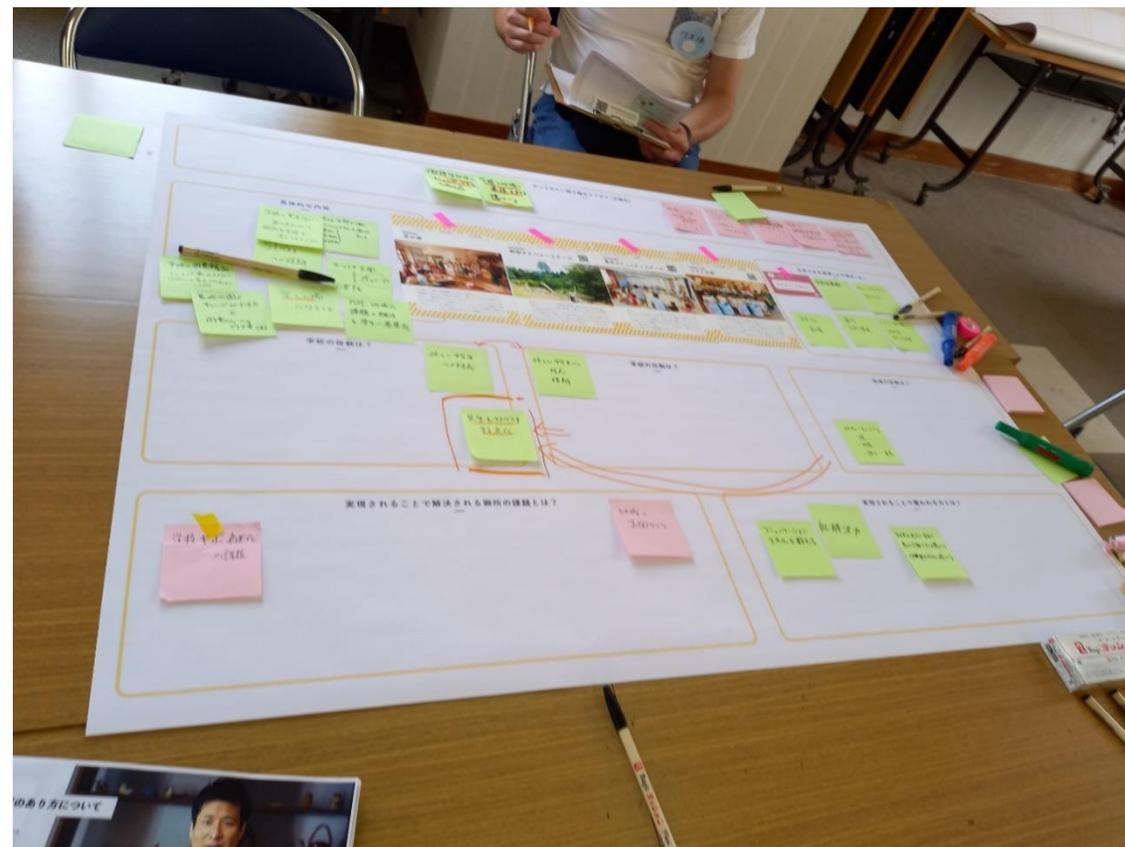
第3回御所市教育大綱ワークショップに参加しました。今回のゲストは菅野裕太さん。東日本大震災後、被災地の放課後学校コラボスクールを立ち上げ、現在は岩手の大槌（おおつち）町教育委員会に教育専門官として行政支援を担当されているそうです。

【菅野裕太さんのビデオメッセージ】

- 震災後の学校現場では体育館を区切り、授業を行った。
震災後すぐに教育現場を再開できたのは、行政だけに頼るのではなく、民間だからスピード感を持って対応できた。
- 震災にあった子どもたちが自分の故郷について考えてもらうという取り組みを行った際は、地域の方が貢献してくれた。ふるさと課を立ち上げ、地域の方が子ども達に教える。
津波によって壊滅的な状態となり、たくさんの方も亡くなったが、だからと言って海が怖いから避けるのではなく、地域の方が海の良さを教える取り組みを行ってくれた。
- コミュニティスクールの中心には、ふるさと課を置き活動を行っている。
ふるさと課を中心とし、学校、家庭、地域に対し学校の価値を地域の方が教えて行くというスタイルになっている。自分で町の課題を見つけ、自分が解決する取り組みとして「マイプロジェクト」を行っている。
- 地域と学校が分かり合うことが大事。お互いの弱い所を補い合える関係を築くことが重要となる。教育の質が低いと「人は育たない」＝「町が活性化しない」という状態となる。その為、地域で子どもを育て、「地域が共に育って行く」⇒「教育を学校任せにしない」こと。
- これが大事と思うことを積み上げて行く。対話によりビジョンを作り上げて行く「御所ストーリー」を作ってほしい。

以上のようなビデオメッセージの後に、ワークブースにより教育大綱に向けたアイデアを考えて行きました。

ふるさとづくり	交流・つながり	主体性
町の伝統文化 豊かな自然への 深い体験を通して	自ら多様性を受け入れ 世代や地域、言語が 異なる価値観・文化 との交流を通して、	自らのありたい姿や 志を深め、 物事を探求する意欲を 自らの中に持ち、
ふるさと大槌に 愛着・誇りを持ち	立場の違いを越えて 積極的に協働する力	主体的に意見表明や 行動ができる
未来につなげる ふるさとづくりに 貢献する力		



ワークブースの写真

ワークブースの中では…

地域と学校が関わり合うためにはどのようにすればよいか、そしてどのような取り組みを行えるかなど、参加者が思うそれぞれの意見が出されました。

ここで、ポイントとなるのはコミュニティスクールの在り方そのものです。現在御所市のコミュニティスクールは大正中学ですが、今後は御所市だけでなく、全国の学校がコミュニティスクールとなっていく様相です。

我々、大正中学においても「未来につなげる取り組み」を行って行く必要があります。コロナだからできない。ではなくコロナ禍の中で何が出来るかということも踏まえ考えていかないと学校、家庭、地域の輪が途切れてしまうことが懸念されます。コロナ禍の中で学校運営をいかに充実したものにしていくのか。我々には大正中学の「みらいのカタチ」について考えていかなければならない責任があります。

これからも、家庭として、地域として学校に関わって頂き、共に子どもたちの教育に携わっていただければと思います。

今後も PTA 活動にご理解とご協力の程、宜しく願いいたします。